

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能型 夢前ひまわりホーム
所在地	(〒 671-2122) 姫路市夢前町置本 439-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

病気を抱えていても医療・介護の専門家の目が届く環境で、他の機関や家族と連携を取り、医療依存度の高い方も積極的に受け入れ、「通い」「宿泊」「訪問」を柔軟に組み合わせたサービスを提供し、住み慣れた自宅で自分らしく「いつもの暮らし」が継続できるよう家族や地域と共に支えあえる施設づくりを目指します。

多職種連携にて各専門職の知識・技術を持ち寄り、専門性の高いQOL（生活の質）QOD（終末期の質）の向上を目指しています。計画的に機能訓練を実施し、残存機能を維持・向上させ在宅生活の継続を支援します。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2026 年 4 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 3 月 19 日	出席人数（合計）	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員（ 3 ）人 <input type="checkbox"/> 市町村職員（ ____ ）人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員（ 1 ）人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者（ 1 ）人 <input type="checkbox"/> 利用者（ ____ ）人 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族（ 1 ）人 <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者（ 1 ）人 <input type="checkbox"/> その他（ ____ ）人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	各職員が年度初めに計画を立て、施設内外の研修へ参加しスキルアップを目指す。 BCP 作成が義務化となっているため、内容の見直しや必要な訓練を行っていく。	職員課各個人で研修を受け、看護小規模多機能サービス会議にて講師となり知識を伝達した。 BCP の取り組みについて職員の理解を深めるように努めた。	職員一人ひとりが個人研修に取り組むことによって、知識やスキルアップを図ることは大切なことだと思う。知識を職員間で共有してほしい。 BCP についての理解を深めてほしい。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	多職種が協働する特徴を生かし、それぞれの目線からアプローチし、状況変化の予測やリスク管理を行う。 利用者、家族の希望や生活に着目しアセスメントを行い、目標達成に向け職員全員で取り組みを行う。	各専門職がそれぞれの知識やスキルを伝達、共有することにより体調の変化や今後の状況変化を予測し早期に対応することが出来た。 利用者の身体状況や家族の生活に沿った利用計画の作成・計画の実施に努めた。	今後も積極的に施設内外の研修に参加し、知識やスキルアップを図ってほしい。得た知識をチームで共有し、より良いサービスに繋げてほしい。 引き続き、利用者の特性や状況に応じた専門的なサービスを提供してほしい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用者の主治医を全て把握し、日頃の状況や急変時、緊急時の連携を図る。 緊急マニュアルの見直しを行い、介護職員・看護師間の対応の統一を図る。	利用者の主治医と連携を取り現在の状況や今後の変化について予測等を共有し看護計画、利用計画を作成し実行した。 職員間でケアの統一を行った。	現状の把握と早期対応により状態の悪化を予防することが出来たらいいと思う。 医療機関、各専門職の連携を密にし利用者の体調管理に努めてほしい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	引き続き自治会や民生委員と連携し、地域住民に対する対応を行っていく。 地域行事や活動に参加する。	自治会や婦人会を通じて説明会を行ったり、地域ケア会議などへの参加により民生委員や地域住民との連携が図れるように努めた。	引き続き、自治会や民生委員と協力し、地域の方々が安心して過ごせる環境づくりに貢献してほしい。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看護小規模多機能型サービスの特性を地域や病院に発信することで、医療ニーズの高い利用者様の受け皿となることができた。	病院の地域連携室や主治医と連携し、介護度や医療度の高い方の受入れを積極的に行った。代行申請など地域住民のニーズに合った業務に取り組んでいる。	施設の特性を多くの人へ周知を図り、医療機関や各専門職との連携を密にし、医療ニーズの高い人の在宅介護の受け皿になってほしい。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員間での情報の共有や業務の統一などは概ね行っており、各個人も研修に取り組むことが出来ている。法人の委員会活動にも参加できており、報告や伝達など職員間の連携が図れている。	各職員が年度初めに計画を立て、施設内外の研修へ参加しスキルアップを目指す。 BPC 作成が義務化となっているため、内容の見直しや必要な訓練を行っていく。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	看護師・介護士が連携しチームで協力し業務を行うことができ、感染症の蔓延は見られなかった。 施設内での感染症予防対策、ガウンテクニック、感染症の嘔吐物処理方法などの研修が定期的に行っており感染症の発生、蔓延は見られなかった。	多職種が協働する特徴を生かし、それぞれの目線から体調の把握を行い体調変化を予測し早期対応により悪化防止に努める。 利用者、家族の現状や地域に着目し、細かくアセスメントをすることにより、よりよい生活環境を整える。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主治医や他医療機関とも連携を図り、利用者の情報共有や受け入れを行っている。 夜間や土日の救急対応にも対応できている。	利用者の主治医を全て把握し、連携をとり、日頃の状態や急変時、速やかに対応ができるよう緊急マニュアルの見直しを行い、介護職員・看護師間の対応の統一を図る。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	自治会や地域の住民と協力し、介護難民者へ向け、介護申請の代行等、本来看多機の利用対象外の方にも必要なサービスを受けていただけるように支援を行った。	引き続き自治会や民生委員と連携し、地域住民に対する対応を行っていく。 地域行事や活動に参加する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	医療機関や地域連携室と連携し、医療度の高い方や毎日の訪問看護、介護が必要な方へのサービスの提供ができ、在宅生活の継続ができている。また、職員が協力し諦めない精神で対応し、看取り期を脱することができるまでに回復することができた。	各専門職の視点から情報を収集し、その人だけのケアプランを作成し、介護支援専門員・看護・介護が協力し、計画目標の達成を目指す。 医療度の高い方も、在宅生活の継続ができるよう支援する。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			事業所の理念を職員が理解し、取り組みを行って頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			今後異動や新規に入職してきた人にも理念の周知と理解を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			他施設や、他部署での経験はあると思うが、業務内容は違うと思われる。それぞれ年数に応じた育成計画があった方が望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 年度初めに各自で今年度の目標を設定し、目標に向かって個人研修や施設内研修等の計画を立てている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			いろいろな研修に参加することは知識を得るうえで大変良いことだと思う。引き続き知見を広めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 施設内や外部研修、ネット等を活用し、各自で研修に参加し、各々がスキルアップを行っている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			日々利用者の変化はあると思う。情報の共有は大切であり、「知らなかった」「聞いていなかった」となることのないよう、常に新しい情報を共有してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 毎月の看多機会会議内で利用者の状況や変化の報告と話し合いを行っており、介護方法や対応の見直しなどを行っている。日々の昼礼の時間にもミニカンファレンスを開催し情報の共有を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			利用者の確保について地理的に不便だと思われるのではないか。町内や周辺の住民にアピールした方が良いのではないか。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の家族、地域の情報等を得ることが出来、サービスに取り入れている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			引き続き、風通しの良い職場環境づくりに力を入れてほしい。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 管理者、介護支援専門員、介護・看護のリーダーがそれぞれに相談に応じ、業務内容の改善に働きかけており、誰にでも話せる環境を作っている。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			職員間の情報の共有が大切。家族や主治医等からの情報、要望や指示等漏れの無いように、報告、伝達し安心な日常を提供するよう日々業務にあたってほしい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 管理者、看護師、介護支援専門員、介護職が知り得た家族からの情報は、すぐに申し送りノートや昼礼にて情報の共有と更新を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			<p>最近では道路交通法も細かく変わってきており、送迎時にも注意が必要になってきている。日々、利用者はもとより、職員自身も自分の体を守るように業務にあたってほしい。</p> <p>送迎の際の交通事故には十分に注意してほしい。</p>	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</p> <p>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			<p>最近 BCP についての話をよく聞く。BCP について職員間で周知を図りスムーズに対応できるようにしてほしい。</p> <p>夢前看多機は洪水災害の警戒地域でもあるため、引き続き、十分な備えと災害時の対応について日頃から準備をしてほしい</p>	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます。</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<p>自宅で介護することは家族にとって負担が大きい。また、介護の仕方が分からない人もいると思う。退院時に介護方法の指導などしてもらえていい。今後も家族に寄り添って対応してほしい。</p>	<p>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</p> <p>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</p>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			<p>看護師・介護士が情報の共有を行い、それぞれの専門職の強みを生かして、体調不良やケガなどの早期発見と早期対応により体調の維持や管理を行ってほしい。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			本人の思いや希望を聞き取り、目標の達成を基本として、本人が家族と良好な関係を築くことが出来るよう、家族の負担軽減を考え計画作成することも必要。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] 定期的な訪問や、送迎時に家族、利用者の思いを聞き取り、計画書には利用者本人、家族の希望を盛り込んだ内容の作成を心掛けている。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			トイレで排泄すること、自分でご飯を食べること等、日常生活の中で自分の力でできることを継続できるように看護師・介護士で行える機能訓練を継続してほしい。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] その人らしい、当たり前の日常を提供する。していることを継続し、出来ることを増やしていくことを目指し、機能訓練の実施を取り入れた計画作成を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			今後起こり得る状況についての予測と理解は大切。引き続き利用者の状態を把握し、体調の変化や事故の予防に努めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			計画の適宜見直しは大変な作業だが重要なこと。引き続き頑張ってもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			<p>宿泊がほぼ満床状態でサービスの偏りがあるようにも感じる。突発的な利用にも対応できるのか、登録の利用者や家族の思いも汲み取り対応することが望ましい。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			<p>急変や体調不良者に対して、主治医と連携し、救急搬送や入院など早期に対応できている。今後も利用者の状態をよく見て迅速な対応を行ってほしい。</p>	<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			新しい知識を吸収しながら、情報を共有し、それぞれの専門性を生かして、連携をとりながら対応してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			看護職、介護職それぞれの専門性を生かし、連携が取れることが望ましい。 そのためにコミュニケーションを密にし、情報の共有ができるようにしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			<p>新入職員や、新しく変わってきた職員にも理解できるように、解りやすく説明し、丁寧な対応をしてください。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 昼礼や会議、申し送りのノートを用いて、利用者の病状や治療に関する内容など、職員間で周知を図っている。</p>	<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>看護小規模多機能のサービスはやや難しいので丁寧な説明を期待します。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 見学や契約時に詳しく説明を行い、その後も質問があれば、その都度説明し理解を得ている。</p>	<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>看護小規模多機能のサービスは他のサービスと違い、複合的などころがやや難しいので、丁寧な説明をお願いします。</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 専門用語を使わず、解りやすい言葉で伝えるように努めている。</p>	<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>一般の方が医療処置や医療機器を取り扱うこと難しいと思う。最近では退院時に家族に対して医療機器の取り扱いなど指導を行っている病院があると聞く。一度や二度では理解しがたいと思うので、看護師が訪問できる強みを生かし、丁寧な対応を行ってほしい。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			<p>意向確認ができにくい人もあると思うが、出来るだけ本人主体で、気持ちよく過ごせるような計画書になるようにしてください。</p>	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 訪問の際に、看護師より説明を行っている。実際に家族に実施して頂き、手順等も確認している。</p>					
		<p>[具体的な状況・取組内容] ご自身の希望や要望があれば伺い、意思の確認ができない方に関しては家族の意向を計画書に反映している。いずれにしても本人主体の計画書になるように寄り添った対応を心掛けている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○			最近サービス付き高齢者向け住宅やグループホームなどいろいろな施設ができている。家族もどうしたらいいのか迷うこともあるかと思う。利用者の様子を見て最適な対応を行ってほしい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 契約の際に将来的なことを含め相談を行っている。状態が変化するごとに本人や家族と相談しながら対応している。入院や入所なども視野に入れ検討できている。</p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			夜中に急な変化があったらどうなるのか？ →医師により対応は様々だが意向に沿った連絡方法をとっている。 いざ看取りとなると家族も不安になると思う。家族に寄り添って、後悔の無い看取りとなるようにしてほしい。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<p>[具体的な状況・取組内容] 主治医から看取り期について家族説明していただいている。主治医と連携し、看護師を中心に対応している。記録を作成し、家族に丁寧に経過報告を行うように努めている。 定期的に意向確認を行い、記録として残している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			引き続き、安心して退院を迎えられるよう支援してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			緊急時に備えあらかじめ相談しておくことが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			引き続き、夜間など看護師不在時は、連絡体制を整え、スムーズな対応をお願いしたい。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 主治医または協力病院と連携を図り緊急時の対応に備えている。休日夜間でも、当番の看護師が訪問し医師へ連絡。救急対応の手続きも行っている。 状態変化が危惧される利用者については、後方支援の手続き行い受け入れ病院の確保に努めている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			地域包括支援センターや地域の自治会、住民からの情報を活用し、地域との連携を深めてほしい。また、地域住民のボランティアなども受け入れてみたらよいのではないか。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		運営推進会議について地域の方には認知されていないため難しい。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 議事録はファイリングしてあり、誰でも見られる環境を整えているが、情報発信は行っていない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			近隣にも困っている人はあると思う。施設の周知を図り、今後も看多機として、地域に果たす役割の啓発活動を行ってほしい。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 地域においては、新聞折込やポスティングなどを行い施設の周知を図った。また、看護小規模多機能型サービスについての説明会や介護相談、健康相談を行い、施設を理解していただくように努めた。事業所独自の新聞を作成し配布している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			<p>介護職員の対応では難しいと思われる。今後の検討課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			自宅での看取りなど柔軟に対応してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
							<p>[具体的な状況・取組内容] 積極的に看取り対応を行っており、退院の際に看取りの対応となられている方も受け入れを行った。今のところ、施設で看取り希望の方への対応ばかりであったが、今後は自宅での看取り対応も行っていきたい。</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			地域包括ケアシステムというものが一般的には浸透していない。地域包括の役割などもっと理解してもらってもいいのではないかと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			在宅での生活が維持できることは利用者にとっていいことだと思う。今後も地域を限定せずに対応してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		必要なところに必要な情報の発信を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整え

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
		う援助を行った。					ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 通い・宿泊・訪問と包括的なサービスを計画し支援を行うことで、在宅生活の継続に繋げている。	できるだけ早期に目標が達成されることを望む。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医と連携し、訪問、施設利用時の医療的ケアに対応している。夜間、急変時等看護師の訪問や処置、救急搬送等に対応し在宅生活の不安解消に努めている。	介護に加え、医療面においてもサポートが受けられることは安心感につながる。今後の活動に期待する。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 契約時にすべての利用者、家族に看取りに関する意思の確認を行っている。在宅での看取りには不安がある方に対しては事業所内で看取りを行い、家族にも宿泊していただくなど、利用者・家族の安心感につながるよう支援している。</p>	<p>看取りに対しては不安が大きい。在宅での看取りから、施設での看取りに切り替えることもできるのであれば不安は少ない。大きな安心感につながる。今後も家族に寄り添った対応をしてほしい。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>